

各 位

平成14年9月6日

株式会社 神戸製鋼所  
(コード番号) 5406

## 平成15年3月期 決算見通しについて

当社の第150期(平成15年3月期)の決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

### (1) 連結決算見通し

当期のわが国経済は、引続き個人消費や民間設備投資などの内需が低迷したものの、海外景気の回復に支えられ、自動車やIT関連などを中心とした輸出主導による緩やかな景気回復の動きが続いてまいりました。

このような状況の下、当社は、『緊急収益改善策』、『総コスト削減策』の実施を含め、収益の確保に向けて最大限の努力を払ってまいりました。

鉄鋼関連事業におきましては、アジア向けの輸出が大幅に増加したことに加え、国内についても自動車向けを中心に堅調に推移したことから、鋼材販売量は前回見通しを上回りました。また鋼材販売価格につきましては、海外市場での急速な需要回復を背景に輸出向けの価格が上昇したことに加え、国内についても業界を挙げて需給改善に取り組んだ結果、市況は値戻しの動きが軌道に乗りつつあります。

また、鉄鋼以外の事業におきましては、IT関連需要の回復を背景に、アルミ・銅関連事業がアルミ厚板及び銅板条を中心に販売量が増加するなど、概ね堅調に推移しました。

これらの結果、当上半期の売上高につきましては、前回見通しに比べて100億円増収の5,700億円程度となる見込みです。また、損益につきましては、経常損益は前回見通しから60億円増益の80億円程度となり、当期損益につきましては、前回見通しに比べて30億円増益の40億円程度となる見通しです。

下半期につきましては、依然として個人消費の低迷や民間設備投資の減少が見込まれるなど、内需の自律的反転が期待できないことに加え、米国経済の減速が懸念されることなどから、先行き不透明な状況にあります。

このような状況の中で、鉄鋼関連事業において前回見通しに比べて輸出を中心に販売数量増が期待できるものの、一方で中国セーフガードの影響などの不安材料があることから、下半期の業績見通しについては前回見通し並みとしております。

この結果、通期の見通しにつきましては、売上高は、前回見通しに比べて100億円増収の11,800億円程度となる見込みです。損益につきましては、経常損益は前回見通しに比べて60億円増益の210億円程度、当期損益は前回見通しに比べて10億円増益の60億円程度となる見通しであります。

## 【連結決算見通し】

(億円)

		売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	当中間期	5,700	80	40
	通 期	11,800	210	60
前回見通し	当中間期	5,600	20	10
	通 期	11,700	150	50
前 期 実 績		11,980	135	285

## (2) 単独決算見通し

当上半期の売上高につきましては、鉄鋼・溶接部門において鋼材販売数量の増加により増収となることなどから、前回見通しに比べて100億円増収の3,900億円程度となる見通しです。また損益につきましても、鉄鋼・溶接、アルミ・銅の各部門で増益が見込まれることから、経常損益は前回見通しに比べて50億円増益の70億円程度となり、当期損益は前回見通しに比べて30億円増益の40億円程度となる見通しであります。

通期の見通しにつきましては、連結決算同様、下半期の業績について前回見通し並みと見込んでいることから、売上高につきましては、前回見通しに比べて100億円増収の8,000億円程度、経常損益は前回見通しに比べて50億円増益の150億円程度、当期損益は、前回見通しに比べて10億円増益の40億円程度となる見通しであります。

## 【単独決算見通し】

(億円)

		売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	当中間期	3,900	70	40
	通 期	8,000	150	40
前回見通し	当中間期	3,800	20	10
	通 期	7,900	100	30
前 期 実 績		7,939	40	209

## 〔中間配当について〕

中間配当につきましては、平成14年3月末において欠損金を計上していることから、誠に申し訳なく存じますが、商法の規定により実施することができません。

事情ご賢察のうえ、何とぞご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

以 上